

輸送、通信体制を確認

AMD Aなどと 被災地支援で訓練

協力体制を確認するAMD Aグループの菅波
代表(中央)―丸亀市役所玄関前



国際医療援助団体「AMD A(アムダ)」(本部・岡山市)は9日、南海トラフ巨大地震に備え、丸亀市などととも被災地へ円滑に医療チームを派遣するためのシミュレーションを行った。地震発生に伴い合同対策本部を設置する岡山県総社市から前線拠点の丸亀市を経由し、甚大な被害が予想される徳島、高知両県の病院までチームを派遣するための輸送ルートや通信体制などを確認した。

AMD Aと医療支援協定を結ぶ自治体や消防、医療機関が一体となった初めての訓練で、ルートや時間の検証、県をまたいだ相互通信などの課題を洗い出すのが狙い。徳島、高知両県と

8市町、医療機関の担当者ら約30人が参加し、午前7時、南海トラフを震源とするマグニチュード8・6の地震が発生したとの想定で開始した。

AMD Aグループの菅波茂代表らは総社市から海上タクシーを利用して丸亀に入り、国内外の医療関係者が一堂に宿泊できる施設を視察、市役所で梶市長と協力体制を確認した。

笠岡ふれあい空港からヘリコプターも出動。被災地へ飛ぶ予定だったが、悪天候のため、経由地の丸亀市金倉町のPikarastajiamに着陸して訓練を終えた。来年2月に参加団体が集まり、今回の課題などを話し合う。